

# 3月定例議会 議会報告版

# 新市のまちづくりと暮らしを守る市政へ

合併後、初めての年間市予算を審議する三月定例市議会が、三月三日から二五日まで開催されました。

日本共産党議員団(小菅六雄・野並享子両市議)は、新市のまちづくりと暮らしを守る市政実現へ新幹線新駅設置やイオン進出問題、また、福祉医療を守る切実な要求の実現を市長に迫りました。



近江富士花緑公園

# 寄せられた切実な願いしつかり届けました

## 新駅設置 (野洲市負担 2億7000万円) やめ 福祉・暮らし優先の予算を

### 新幹線新駅

中学校給食、学童保育所の社協委託など要求実現  
 新年度予算では、これまで市民のみなさんと運動をすすめる、議会でも要求してきた中学校給食の実施、学童保育所の社会福祉協議会への委託。子どもの医療費を小学校入学前まで無料化、介護激励金や市内循環バスが全市に拡充されるなど、切実な願いが実現しました。

**国保税介護保険料を大幅値上げ**  
 一方、国民健康保険税や介護保険料は、大幅な値上げがされました。国保税は、旧中主町と比べ三五九六円、旧野洲町では六五九六円の値上げに。介護保険料も、旧中主町で六四〇〇円、旧野洲町で九四〇〇円(いずれも年間・基準額)です。野並享子議員は、「合併で負担は低い方に」の約束に違反、「公共料金の激変緩和のための国補助金を財源に値上げはやめるべき」と主張しました。しかし、この国保税の大幅な値上げ案は、共産党議員団以外の全議員が賛成。介護保険料は共産党議員団と他の一名の議員以外の賛成で決まりました。これでは市民の暮らしと健康は守れません。

利用しない新幹線新駅に二億七千万円の負担？  
 市民に負担増を押し付けながら、ムダで必要ない新幹線新駅設置には巨額の税金を投入しようとしている。一般質問や議案質疑で、小菅・野並両議員は、「促進協議会が出した利用見込みや経済波及効果は全くズサンで新駅設置は必要ない」「駅舎費用や周辺開発に一〇〇億円を超える税金が投入され財政破綻を招く」と、新駅設置をやめ、野洲市として費用負担はやめるよう求めました。しかし、市長は「新駅は湖南地域の将来を展望して必要」として、今後、負担に応じる方向を表明しました。

**「逆差別」の個人施策や思想調査を指摘**  
 同和行政では、修学奨励費として、私立大学で月一万五千元、入学支度金三万円、JRの通学定期の補助などの個人施策を実施。法の下での平等に反すると追及しました。また、市が予定している「地域実態調査」は、これまで「運動団体への参加の有無」などが調査されており、思想信条の自由を侵すもので、調査の必要性を主張しました。

日本共産党  
野洲市議団

## ホームページを開設しました

日本共産党野洲市議団と小菅六雄市議、野並享子市議のホームページを開設しました。市民のみなさんとの双方向性で市民本位の市政へ、情報を発信します。(ホームページには、これまでの活動や「市議団ニュース」を掲載しています。ぜひ、アクセスしてください)

日本共産党野洲市議団 <http://www.yasusigi.net/>

小菅六雄市議 <http://www.yasusigi.net/~kosuga/>

野並享子市議 <http://www.yasusigi.net/~nonami/>

# 子どもの健やかな成長へ 教育としての給食を

# 平成19年度から中学校給食実施されます 野洲米の炊飯や磁器食器も検討

## 7000食の給食センター計画



質問する野並享子市議

中学校給食を実施するために、二カ年計画で総額二十四億円、大型の給食センターの建設（七〇〇食・八夫地先に建設）が計画されています。

これまで、野並享子議員は町議の時代から、食育・食農の観点から、また地産地消や避難所の炊き出しのためにも、自校・自園方式の保・幼小中学校の給食をもとめてきました。

## 高市ではセンターから自校

野並議員は「茨城県古河市では、老朽化したセンター給食を、自校方式に切り替え、平成二〇年には中学三校、小学校七校の全校が自校方式になります。十校の建設費の総額は九億四千四百万円、二五三〇㎡で、単価四十二万円。野洲市の場合、用地代を除いた総額が二十二億二千万円、四千㎡で、単価は五十五万五千円です。このようなことを、調査研究された

のか。また古河市では、おにぎりを保護者と共につくり、防災訓練を行い、実践的な訓練になっている。磁器食器も使用。地産地消も追求している。また旧中主町ではバイキング給食など行っているが、出来なくなるのでは」と質問しました。

しかし、市当局は「学校の敷地内で用地はない。自校方式は高くつく。防災のために自校方式は考えていない。磁器食器は検討する。野洲米を炊飯し、バイキングなどは続ける」と答弁しました。給食を教育として位置づけ検証されたか疑問が残ります。

# 水道料金的大幅な値上げをやめよ



質問する小菅六雄市議

水道料金は平成十八年度から料金が統一されます。ところが、旧二町では料金に大きな開きがあります。

現在の供給単価でみると、旧中主町は旧野洲町より約二〇円低くなっています。しか

し、料金統一になれば、旧中主町では、十六円値上げというものです。（合併協議会のシミュレーション）

小菅六雄議員は、「このまま大幅な値上げを行なうことは合併時の約束違反である」として、水道事業の経営努力とともに、「高い南部用水の受水費の単価引き下げを県に求めること」、「国の激変緩和補助金を投入して、旧中主町地域の料金値上げをやめるよう」求めました。市は、「経営努力をする」の答弁にとどまっています。

## 合併協議会が示したシミュレーション

	H14	H18	増減額	増減率
中主町	117.36	133.41	16.05	13.68
野洲町	137.29		3.88	2.83
2町合算	132.39		1.02	0.77

単位 = 円、供給単価の比較

# 「市民窓口サービス」の存続・充実を

小菅六雄議員は、「両庁舎でおこなっている市民窓口サービスは廃止せず、市民の願いに沿って存続し、機能の充実をすべき」と要求しました。現在、本庁舎や分庁舎で行なっている「市民窓口サービス」は合併協議の結果、「当分の間の実施」とされ、いずれ「廃止する」ことが予定されています。

「市民窓口」は、各庁舎で対応できないことについて、相談や申請のサービスを行なっています。それでも「本庁舎（分庁舎）の方へ行かないと対応ができないと言われた」などの事例が発生しています。廃止されると、お年寄りなどは一層不便となります。

小菅議員は、「我々が実施したアンケートでも、多くの方から『存続してほしい』と切実な願いが寄せられている」とりわけ、多くの機能が本庁舎に移行したなかで、旧中主町は深刻である」として、存続を強く求めました。

これに対して、「分庁舎に権限を与え、サービスと料金を一元に扱えるようにする。交通手段を持っていない市民のため、庁舎間を連絡する交通手段を検討している」と答弁しました。



## 新市のまちづくりとイオン出店を考える

# まちづくりシンポジウム

とき 4月29日(金)午後7時  
ところ 野洲市中主公民館(さざなみホールがある所です)

主催 日本共産党野洲市議会議員団

イオンが乙窪工業団地に出店を計画しています。まちの活性化は？ 地元商業は？ 住環境は？ ..... 「新市のまちづくりとイオン出店を考えるシンポジウム」を開催します。お気軽に、ぜひともご参加ください。

